

高幡地域アクションプランの 進捗状況確認資料

高幡地域本部
令和7年10月27日(月)

高幡地域アクションプランの進捗状況確認資料

R7.10.27

高幡地域本部

1 地域アクションプランの令和7年度上半期の実施状況(総括)

(1) 総評

令和7年度は、全24項目のアクションプランごとに実行支援チームを編成し、市町や事業者と事業推進に向けた協議や進捗管理を行うとともに、各種支援制度等を活用しながらそれぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めている。

一次産業分野では、安定的な生産や販売拡大に向けた取り組みを進めるとともに、観光分野では、「どっぷり高知旅キャンペーン」と連携した地域資源の磨き上げや旅行商品の造成に取り組むなど、地域産業の振興や交流人口の拡大を図っている。

農業分野

農業分野では、栗の栽培面積の拡大により生産量の増加を図るとともに、加工品開発や販路開拓の取り組みを進めている。

畜産業では、新たな豚舎が整備され、「四万十ポーク」の安定的な生産が可能となった。また、キジ肉では、生産羽数の安定化に取り組むとともに、継続的な営業活動により、新たな販路開拓につながっている。

林業分野

梶原町では、林業人材の確保に向けて、移住フェアでのPRやインターンシップの受け入れ等に取り組む、3名の雇用につながった。

また、再生可能エネルギーの地消地産に向けて、木質バイオマス発電施設や木質ペレット工場の整備が進んでいる。

水産業分野

須崎市産の養殖マダイ等については、新商品を開発するとともに、量販店を中心に取引が拡大しており、売上げの向上につながっている。

また、梶原町のアメゴについては、営業活動や商談会等への参加に加えて、本年7月から、ふるさと納税返礼品としての販売を開始しており、引き続き、販路開拓を進めていく。

商工業分野

中土佐町のカツオ、津野茶や梶原町の桜、ブドウなど地域の食材を使った新商品や、道の駅のオリジナル商品の開発が進んでいる。

また、ECサイトの活用や商談会等への積極的な出展により、販路開拓・拡大に取り組んでいる。

観光分野

一般社団法人奥四万十高知を中心に、市町村や関係団体、事業者等と連携し、奥四万十エリアを巡るツアーの造成やスタンプラリー、SNS等を活用した情報発信、県外の旅行会社への誘致セールスに取り組むなど、誘客促進や奥四万十の魅力の発信を強化しており、主要な観光施設への入込み数は目標を上回っている。

今後も、体験メニューの開発や磨き上げ、受入体制の整備等に取り組み、さらなる交流人口の拡大や観光振興につなげていく。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
				R6実績	R7 到達目標	R9目標		R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現時点の進捗状況 現状分析
農業	1	<p>栲原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト (栲原町)</p> <p>【実施主体】 ・◎(株)四万川 ・栲原町</p> <p>栲原町で生産されているキジ肉の加工品について、安定的な生産体制を確保するとともに町内飲食店での消費の向上を図るとともに、栲原町の特産品として県内外の飲食店や個人への販売拡大、他産地と連携した高知県産キジ肉としての認知度向上の取り組みを行う。</p>	販売額 1,160万円 (R4)	1,341万円	2,366万円	2,655.4万円	<p>1 生産体制の確立と生産羽数の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規生産者の育成【通年】 HACCPに沿った衛生管理【通年】 ふ化率向上のため他産地と連携した生産体制の強化【通年】 デジタル技術、設備の導入等による生産羽数の増加(鶏舎の温度・湿度管理、ふ化器等)【通年】 家畜保健衛生所からの指導に基づいた感染症対策【通年】 <p>2 販路の開拓・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外飲食店との取引強化に向けた、地産外商社と連携した営業活動(ブランディング再検討)【通年】 <p>3 キジ肉消費向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛媛県北町、いの町本川地区との連携の検討【通年】 イベントへの積極的な出店【通年】 「第6回土佐のキジ祭り」の開催【R8.3月】 	<p>1 生産体制の確立と生産羽数の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜産試験場及び西部家畜保健衛生所による生産者への技術指導(7/24) 作業道具の共同開発、飼料に関する情報交換等について、愛媛県鬼北町、いの町本川地区と連携 飼糧代高騰への対策 →町内産の飼糧米及びワイン用ぶどうの絞りかすを飼料に混ぜて飼料代の節約を検討 ふ化器の更新(12月) (栲原町地場産品販路・生産拡大支援事業費補助金) ひな飼育スペースの改善 <p>2 販路の開拓・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 名古屋事務所と連携し、飲食店(名古屋市内の高級割烹料理店)の産地見学の受入れと商談(7月) 地産外商社と連携し、産地見学及び試食会の受入れ(6月、7月、9月) →県外7事業者と商談 <p>3 キジ肉消費向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 栲原町森林フェスタに出店(5/25) 	<p>401万円 (R7.4月～8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：40.7% ・対前年同期比：137.3% <p>※例年では秋～冬(9月～2月)の売上が年間売上の70～75%を占めているため、現状から年度末までの見込み</p>	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大に積極的に取り組んだ結果、販売額が対前年同期比で約1.4倍となっており、継続的な受注につながっている。 ・ひな飼育スペースの改善により、死亡数が大幅に減少した。 ・県外6事業者と商談が成立した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料代等の高騰分に係る価格転換対応が不足 ・ふ化率の低下 (R6年度：ふ化率73.1% → R7年度：ふ化率64.0%) <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産試験場及び西部家畜保健衛生所との情報共有を継続 ・物価高騰分を価格転嫁するため、R7年度内の値上げを検討 ・産卵率及びふ化率の向上に向けて、種キジの飼育密度の低減と集卵のタイミングの見直しを検討・実証 ・販路拡大・消費向上に向け、地産外商社や名古屋事務所等と連携した産地見学・試食会の受入れ及びイベント出店を継続

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現時点の進捗状況 現状分析
農業	3	四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十野菜(同) ・(株)ハマヤ 有機栽培や特別栽培等の野菜・米を栽培する農業者と連携して、外商活動等を強化し野菜の産地化を進める。また、地域の食材を使用した加工品の製造・販売により地域の農業者の所得向上を目指す。	四万十野菜(同)売上高 1.28億円 (R5)	1.33億円	1.32億円	1.36億円	1 農業者連携の拡大・強化 ・栽培技術現地検討会(圃場クリニック)・勉強会の実施【2回(6月、9月)】 ・新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ【通年】 ・有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践【通年】 ・有機米の栽培面積の拡大(70~80a)【4月】 ・有機米専用施設・機械導入の検討【通年】 ・有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討【通年】	1 農業者連携の拡大・強化 ・有機水稲・ショウガの現地検討会を開催(7月) →6名参加(うち新規就農者1名、その他は管内生産者等) ・有機栽培希望者を1名雇用(R6.7月~)し、社内の農作業を通じて栽培方法を指導 ・有機栽培農家4名のほか、町内外のこだわり野菜生産農家23名の農産物を出荷 ・土づくりや連作回避を目的として、ショウガ栽培の前作には、有機水稲あるいは緑肥(※)栽培を実施(※土壌を改良し、肥料成分を補充するための植物) ・令和7年度は有機水稲70aを作付けしており、次年度は200aに拡大を検討 ・有機水稲の栽培面積拡大に伴って、次年度の設備・機械導入を検討中 ・阪急百貨店プレミアムカタログに有機米のセットが採用 ・新規取引先へ特別栽培米の卸を開始 ・有機米の輸出を目指して、商談会等に参加：2回(8/20・21、9/25・26) ・有機農産物の販路・販売量拡大のため、取引先(新規含む)と商談：1件 →台湾への輸出準備中	0.52億円 (R7.4月~8月) ・R7到達目標達成率：94.5% ・対前年同期比：113.0%	B	(成果) ・有機米セット販売や特別栽培米卸し等の新規の販売が拡大した。 (課題) ・現在の機械・設備では有機水稲の面積拡大が困難 ・加工品の特性に合わせた新規取引先の獲得が必要 (今後の方向性) ・有機水稲の生産・販売拡大にかかる機械・設備を整備(こうち農業確立総合支援事業の活用を検討) ・商談会等で知り合ったメーカーや、県内ホテル等への営業活動を実施
			四万十野菜(同)加工品売上高 79千円 (R5)	580千円	800千円	1,095千円	2 6次産業化の推進 ・商談会等への参加による販売拡大【通年】 ・輸出を視野に入れた体制整備【通年】 ・マーケットインによる新商品開発と既存商品のブラッシュアップ【通年】	2 6次産業化の推進 ・加工品(ショウガ加工品、TOSA七味)のアグリフードエキス等での宣伝・売り込みを強化 →台湾に有機米サンプルを発送予定。TOSA七味の県内継続取引中。販売強化を目指して商標取得を準備中 ・ふるさと納税返礼品への参入(有機米、TOSA七味) ・ショウガ商品のブラッシュアップ(ショウガコンフィチュール、ショウガチップス2種) ・有機米を使った味噌づくりを検討	186千円 (R7.4月~8月) ・R7到達目標達成率：55.8% ・対前年同期比：48.3%	D	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
農業	4	四万十ポークのブランド化の推進 (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十ポークブランド推進協議会 ・(農)平野協同畜産 ・(有)渡辺畜産 ・(株)山中畜産 ・(農)四国デューロックファーム 安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。	四万十ポーク 売上高	13.6億円	13.8億円	15.2億円	1 ブランド化の推進 ・イベント参加やPRキャンペーン等による四万十ポークの認知度の向上【通年】 ・地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理【通年】 2 商品開発と販路開拓 ・新商品の開発や催事・商談会等への参加による販路拡大【通年】 3 生産基盤の強化 ・畜産防疫の最新情報の把握及び疾病の発生状況に応じた防疫体制の見直し【通年】 ・(株)山中畜産の施設整備に伴う生産の強化【通年】 ・(有)渡辺畜産の環境整備【通年】	1 ブランド化の推進 ・チラシやのぼり旗の配布、ポロシャツの販売によるPR ・さんしんGOによる四万十ポークのPR実施(6/15) ・とさのさとでの販促イベント(9/27) ・四万十ポークブランド推進協議会幹事会(5/14、6/19、9/12) ・四万十ポークブランド推進協議会の総会(5/23) 2 商品開発と販路開拓 ・新商品の販売開始：1点(ポークジャーキー) →店頭及び近隣道の駅や関東圏スーパーでの販売開始 ・商談会へ参加(9/25) 3 生産基盤の強化 ・飼養衛生管理及び疾病対策の改善、各農場に応じた対処計画の作成 ・(株)山中畜産の施設整備(産振補助金(特別承認事業)、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業補助金(国)を活用) ・(有)渡辺畜産の堆肥化処理施設整備に着手(こうち農業確立総合支援事業費補助金(県)を活用)	6.26億円 (R7.4月～8月)	A	(成果) ・産振補助金(特別承認事業)と国の補助金を活用した(株)山中畜産の豚舎が完成し、8月と9月に種豚を導入し、効率的な管理が実施できている。 ・出荷頭数の増加(対前年同期比112.5%)および枝肉相場の上昇により、売上高が伸びている(対前年同期比112.3%)。 (課題) ・伝染性疾病の低減が必要 ・四万十ポークの認知度向上が必要 (今後の方向性) ・疾病に応じた飼養衛生管理の再確認 ・衛生環境の整備による事故率の抑制及び生産頭数の増加 ・販促資材やイベント出店によるPRの継続
			年間出荷頭数 [うち(株)山中畜産の年間出荷頭数]	28,082頭 [568頭]	35,236頭 [1,880頭] ※畜舎整備の関係により山中畜産の今年度出荷は0頭	38,696頭 [4,514頭]			11,587頭 (R7.4月～8月)		
			四万十ポーク 取扱店舗数	34軒	30軒	40軒 (R6～9累計)			40軒 (R6.4月～R7.8月)	S	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
				R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現時点の進捗状況 現状分析
水産業	6	<p>須崎市産養殖マダイ等の販路拡大 (須崎市)</p> <p>【実施主体】 ・◎(株)小島水産 ・◎乙女会 ・高知県漁協深浦支所</p> <p>養殖魚(マダイ)生産者グループと養殖業に関連した民間企業、漁協と連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力(自社価格の設定、加工による付加価値の向上、取引量の拡大等)を構築し、養殖業の振興を図る。</p>	乙女鯛 売上高 会計年度 10月～9月 ※R5.10から 1月末決算に 変更 103,909 千円 (R4)	221,166 千円	250,000 千円	200,000 千円	<p>1 品質の維持・向上と生産量の確保 ・生産者の乙女会への新規加入の促進【通年】</p> <p>2 販路の開拓・拡大 ・県内外商談会への出展(大阪、名古屋方面)【通年】 ・ふるさと納税返礼品及びECサイトによる販売の拡大【通年】 ・個別の商談等による販路の拡大【通年】</p> <p>3 加工体制の強化・新商品の開発 ・OEM先との連携による高付加価値商品等の安定生産【通年】 ・新商品の開発【通年】 (検討中のアイデアのさらなる商品化)</p>	<p>1 品質の維持・向上と生産量の確保 ・飼料仕入れ価格の値上がりに対して、乙女鯛の買取価格の引き上げや生産者への飼料販売価格の値上げ幅を低く調整するなど、生産者の経営の下支えを継続 ・生産量の確保及びマダイの品質保持を継続</p> <p>2 販路の開拓・拡大 ・販売体制を強化するため、自社ECサイトの立ち上げを予定 社の他業務を優先していたため、ECサイトの開設が遅延しているが、12月までに立ち上げ予定 ・販路については、既存の流通ルートを重視して取り組んでいる。</p> <p>3 加工体制の強化・新商品の開発 ・地元の加工業者と業務提携を行い、乙女鯛の薫焼きたききの販売体制を強化(5月～) ・業務提携により薫焼きたききの他、鯛の燻製スライスを開発(4月)</p>	182,401千円 (R7.2月～8月) ・R7到達目標達成率：175.1% ・対前年同期比：192.2%	S	<p>(成果) ・既存の流通ルートの量販店を中心に取引額が拡大し売上げが向上した。 ・新商品開発：1品(鯛の燻製スライス)</p> <p>(課題) ・高齢化による今後の生産者数の減少 ・今夏の高水温によって身痩せが発生し、マダイの歩留まりが悪くなることを危惧</p> <p>(今後の方向性) ・担い手の確保に向けた地元の養殖業者の連携を支援 ・飼料メーカーと提携し、ゆず残渣を利用した飼料作成を検討(柑橘類を餌に使用している他社の養殖ブリとの差別化を図る) ・既存流通ルートを活用した販売拡大 ・コロナ禍以降、取引が途切れた県内スーパー等での販売再開を検討中</p>	
水産業	7	<p>ゆずはらアメゴの生産・販売促進 (梶原町)</p> <p>【実施主体】 ・◎集落活動センター「おちめん」 ・梶原町</p> <p>梶原町の伝統産業であるアメゴ養殖事業を持続発展させるため、担い手の確保と育成、デジタル技術を導入した最適な養殖環境の構築による安定生産と販売拡大を図る。</p>	売上高 376万円 (R5)	397万円	1,306万円	1,626万円	<p>1 生産体制の確立・強化 ・デジタル化により取得したデータを活用した養殖事業の効率化に向けた取り組みの継続【通年】 ・専門業者による水カビ病対策の実施【通年】</p> <p>2 販路の拡大 ・販売・収支計画の見直し【9月】 ・HPやSNS等による情報発信【通年】 ・「遊友館」等を活用したアメゴ関連イベントの開催の継続【9月】 ・県内企業とのコラボ商品開発の継続【通年】 ・商談会出展や営業活動による販路の開拓【通年】</p>	<p>1 生産体制の確立・強化 ・水量・水質やアメゴの行動形態等について、データの取得・蓄積 →データ結果を踏まえた効率の良い育成方法を実践中 ・関係者で情報共有するための定例会の開催(隔週) ・水カビ病対策として銅ファイバーの導入 →運用試験を実施(7月)</p> <p>2 販路の拡大 ・販売会議の開催(5/14、9/17) →販売・収支計画案を作成 ・ふるさと納税及び民間ECサイトでの取扱開始(7月) ・町内直販所等での販売開始(7月)</p>	272万円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：50.0% ・対前年同期比：103.0%	D	<p>(成果) ・ふるさと納税及び民間ECサイトでの販売を開始(7月～)した。</p> <p>(課題) ・水カビ病対策として、防除効果が確認できる精度の高い試験を行う必要がある ・生産量の確保及びそれに応じた販路開拓が必要</p> <p>(今後の方向性) ・水カビ病対策に必要な精度のデータを採取できるよう、工業技術センターでの試験を検討 ・販売・収支計画案を基に地域産業振興アドバイザーのアドバイスを受け販売・収支計画を策定 ・地産外商公社等と連携し、販路開拓を継続</p>	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
				R6実績	R7 到達目標	R9目標		R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
商 工 業	8	「鯉乃國水産」ブランドの創出・販売促進 (中土佐町) 【実施主体】 ・◎企画・ど礼もん企業組合 ・中土佐町 中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。	売上高 3,072万円 (R4)	4,991万円	4,800万円	5,900万円	1 安定的な生産体制の構築 ・地域おこし協力隊の募集の継続【通年】 ・商品の製造効率化や生産体制強化に向けた施設整備の検討(急速冷凍機等)【10月～12月】 ・新商品の開発・商品化に向けた試作・検討【通年】 ・HACCP認証(JFS)取得に向けた検討(コンサルティングの活用等)【通年】 2 販路拡大 ・県外での催事や商談会への参加【通年】 ・継続的なECサイトの分析・改良【通年】 ・SNSやメールマガジン等を活用した情報発信の強化【通年】	1 安定的な生産体制の構築 ・地域おこし協力隊(団体委託型)が2名着任(R7.7月～1名、R7.8月～1名) ・商品の製造効率化や生産体制強化のための急速冷凍機の導入(9月～) ・県外企業との取引に合わせた無添加の調味料を使った鯉コック丼を開発・取引開始(8月～) ・R6に商品化した鯉コック丼(冷凍)を、1個包装から2個包装に改良し販売(5月～) ・食のイノベーションベースを活用した新商品の開発(8月～1月) ・HACCP認証(JFS)取得に向けたコンサルティングの活用を検討(1月～) 2 販路拡大 ・高知空港での中土佐町フェアの開催(R7.4月～6月) ・県外百貨店催事への参加：3回 ・商談会への参加：5回 ・企業のバイヤーによる産地見学会の受入れ：6回 ・ECサイトやSNS担当の地域おこし協力隊の着任(8月)	2,105万円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：105.3% ・対前年同期比：105.8%	A	(成果) ・県外催事や商談会への参加等の積極的な外商活動により、県外企業との商談が成立する等BtoBの取引が進んでいる。 ・地域おこし協力隊の雇用や人員配置の効率化により、商品の製造体制が強化された。 【雇用創出数】2人(R7.8月末時点) (課題) ・ECサイトの売上の伸び悩み ・カツオの不漁が続き、仕入れ価格が高騰 ・タキについて、他企業と比較すると高価格帯のため、価格に見合う付加価値のPRが必要 (久礼かつお、アルコールブライン凍結での急速冷凍(ワンフローズン)、解凍後のドリップの少なさ、鮮度が長持ち等) (今後の方向性) ・継続的なECサイトの分析・改良 ・県外での催事や商談会への参加を継続 ・SNSやメールマガジン等を活用した情報発信の強化

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現時点の進捗状況
											現状分析
商 工 業	9	道の駅なかとさSEAプロジェクト (中土佐町) 【実施主体】 ・◎(株)SEAプロジェクト ・中土佐町 「道の駅なかとさ」を拠点に、中土佐町の伝統文化や人をはじめとする地域資源を有効に活用して、中土佐町の魅力向上や町全体の賑わいの創出を図り、所得向上及び雇用の創出等町全体に経済効果を波及させる。	売上高 (施設全体) 3.0億円 (R4)	3.3億円	3.7億円	3.9億円	1 賑わい創出への展開 ・各テナントや生産者と連携したフェアや季節毎のイベント開催【通年】 ・HP、SNS等による情報発信【通年】 ・新規出荷者・出品事業者の獲得【通年】 ・集客促進や施設の利便性向上のための改修の検討【通年】 2 周辺施設との連携強化 ・町内事業者の商品を含めた外商活動の展開【通年】 ・町内事業者との情報共有による連携や共同企画の検討【通年】 3 地産外商の強化 ・町内産品を活用したオリジナル商品の開発【通年】 ・ファストフードコーナーの商品ラインナップの充実【通年】 ・イベント・商談会・催事への参加【通年】	1 賑わい創出への展開 ・各テナントとの情報共有や連携を目的とした「テナント会議」の開催(8/13) ・ラジオやTV取材等のメディア出演やSNSを活用したPR ・道の駅なかとさスプリングフェア(4/19～4/26) ・かつお祭と連動したイベントの開催(5月) ・来場者数200万人突破記念イベント開催(5/30) 限定メニューの提供や割引キャンペーンの実施 ・8周年記念祭(7/19～7/21) 2 周辺施設との連携強化 ・町内事業者の商品を含めた外商活動の実施 ・観光協会や町内事業者と連携したメジカの新子の情報発信による誘客の促進(R7.8月～) 3 地産外商の強化 ・オリジナル商品の販売 →「にんにく香るカツオの竜田揚げ」(R7.7月～) ※土日のみ復刻販売 →「大漁旗ピック」販売開始(R7.4月～) ・町内産品を活用したオリジナル商品(1商品)を開発中 ・季節ごとのファストフードコーナー商品の販売 ・県外イベントへの参加：3回 ・県外商談会への出展：3回	1.5億円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：97.3% ・対前年同期比：112.9%	B	(成果) ・県外催事や商談会への参加等の積極的な外商活動によって取引件数が増加しており、町内事業者の魅力発信につながっている。 ・テナント会議の開催により、各テナントと定期的に情報共有する機会ができた。 (課題) ・閑散期(冬シーズン)等の集客 (今後の方向性) ・ファストフードコーナーの商品の充実(産振アドバイザー制度の活用を検討) ・室外のオープンスペースの防寒対策や活用方法の検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現時点の進捗状況 現状分析
商 工 業	10	栲原町地産地消・外商の促進 (栲原町) 【実施主体】 ・◎栲原町商工振興協同組合 ・栲原町 ・JA高知県(高西地区) ・町内事業者 ・生産団体 生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化等、地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し、地産地消・外商を一層推進する。	直販所等の販売額 4,832万円(R4)	5,296万円	5,866万円	1億円	1 地場産品の販売促進 ・新しい道の駅で販売する商品や売り場づくりの検討【通年】 ・ふるさと納税返礼品等の商品開発【通年】 2 地場産品の商品力向上 ・認知度向上に向けた積極的な販促活動【通年】 ・商品力向上に向けたブランド力の強化【通年】	1 地場産品の販売促進 ・販売商品や売り場づくりについて外部アドバイザーからの指導・助言(令和7年度栲原町人口減少対策総合補助金(地域の生業創出事業地域商社機能創出アドバイザー業務)) ・栲原高校生と新商品を共同開発(産振アドバイザー制度の活用) →栲原町産食材(ぶどう、牛すじ肉)を使用したレトルトカレー：1品(9月) ・新商品開発 →四国カルスト産牛肉を使用したレトルトカレー/ビーフシチュー：2品(四国カルスト高原カレー/ビーフシチュー) →町内直販所や空港、高知県アンテナショップで販売(5月～) 2 地場産品の商品力向上 ・関西・関東に展開する居酒屋チェーンとタイアップした「栲原フェア」開催(5/17～6/1) ・栲原町ふるさと納税返礼品生産者協議会によるイベント出店 ・新商品開発[再掲] →四国カルスト産牛肉を使用したレトルトカレー/ビーフシチュー：2品(四国カルスト高原カレー/ビーフシチュー) →町内直販所や空港、高知県アンテナショップで販売(5月～) ・ワイン事業の拡大 →ぶどう圃場の拡大及びワインのOEM醸造について検討中 ・栲原町統一ブランドの構築 →ブランドロゴ・パッケージ案等を作成中(11月完成予定)	2,555万円(R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：104.5% ・対前年同期比：105.7%	A	(成果) ・直販所等の販売額は、前年同期と比較して(105.7%)と堅調に推移している。 ・新商品開発数：3品 (課題) ・ワイン事業の事業計画が未策定 (今後の方向性) ・ワイン事業の事業計画案を策定 ・栲原町統一ブランドの確立に向けた検討を継続 ・栲原町ふるさと納税返礼品生産者協議会において、栲原町産品を組み合わせた商品を開発

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率	110%以上
A	数値目標の達成率	100%以上110%未満
B	数値目標の達成率	85%以上100%未満
C	数値目標の達成率	70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率	70%未満
-	達成度の判断が困難なもの	

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
				R6実績	R7 到達目標	R9目標		R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現時点の進捗状況 現状分析
商 工 業	11	<p>栲原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大 (栲原町)</p> <p>【実施主体】 ・◎(株)SAKURA club</p> <p>栲原町産の桜等を活用して、商品の開発・加工・販売に取組み、「栲原町産桜商品」の知名度のさらなる向上を目指すと共に、地域での雇用の創出を目指す。</p>	売上高 230万円 (R4)	440万円	620万円	1,000万円	<p>1 新事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 原材料の安定的な確保に向け県内事業者や県関係機関と桜産地化の検討【通年】 加工所敷地内にてテイクアウト形態を検討【8月】 <p>2 既存商品の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズを把握した商品開発の継続【通年】 県外商談会出展による営業活動の継続【通年】 貿易協会等と連携した海外販路への展開を検討【通年】 <p>3 生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営体制の強化に必要な人材募集【通年】 繁忙期における継続的なパート人材の確保【3月、4月】 オープンの導入による作業の効率化、省力化【R7】 	<p>1 新事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内外客への誘客、認知度向上を目的とした「桜畑のテラスカフェ」プレオープン(8/15)(制度改正等の課題解決環境整備事業(高知県商工会連合会)を活用) <p>2 既存商品の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品3種類開発 (桜ハーブソルト、桜とレモンのドレッシング、桜シロップ)(7月) イベント出展：4回(5/3~5)、(5/25)、(8/10~12)、(8/22~23) <p>3 生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンの導入予定(小規模事業者持続化補助金(国)を活用) 	77万円 (R7.4月~7月)	<ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：37.3% ・対前年同期比：52.7% 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発数：3品 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営体制の強化 ・営業活動が不十分 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会への出展及びイベントへの出店 ・新商品の開発と改良に向けて、外部講師の指導を検討 ・パート雇を増やし、人員体制を強化

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】					
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況				
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析		
商 工 業	12	津野町地産地消・外商推進プロジェクト (津野町) 【実施主体】 ・◎津野町 ・(有)津野町ふるさとセンター ・(株)満天の星 ・JA高知県(高西地区) 町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PRを通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。	主要2社の 総売上高	3.70億円 (R4)	4.20億円	4.08億円	4.46億円	1 アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につながる商品づくりの推進 ・アンテナショップリニューアルにおける基本構想・基本設計【通年】 ・アンテナショップリニューアルに向けた新商品開発検討【通年】	1 アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につながる商品づくりの推進 ・アンテナショップの指定管理事業者と、情報共有会議を定期的に開催 ・アンテナショップリニューアル方針の検討 ・ふるさとセンターがティーバッグ加工を実施(JA及び満天の星のOEM製造)	1.84億円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：108.2% ・対前年同期比：101.7%	A	(成果) ・道の駅(布施ケ坂)の売上げが堅調に推移しており、売上高の増加に寄与している(R6：8,400万円 → R7：9,000万円)。 (課題) ・指定管理者の選定等、方針が未決定 ・リニューアルの方針についての検討が遅延 (今後の方向性) ・指定管理期間が令和8年度までとなっており、来期に向けた指定管理者の方針をR7年度中に決定 ・アンテナショップのリニューアルの方針の検討 ・ふるさとセンターにおいて、OEM製造以外にも自社で野草茶のティーバッグ製造を検討	
			直販所 総販売額	1.33億円 (R4)	1.21億円	1.36億円	1.40億円	2 出荷量の確保と地産地消の推進 ・ティーバッグ商品の開発・販売【通年】 ・生産者にティーバッグ加工用の野草茶や茶葉の出荷の呼びかけ【通年】	2 出荷量の確保と地産地消の推進 ・直販所営農コーディネーターによる生産者指導 ・持続可能な直販制度の設計及び検討を行う「津野町直販最適化委員会」の設立(9月) →今後、月1回のペースで開催	0.54億円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：95.3% ・対前年同期比：103.8%		B	(成果) ・直販所の総販売額が、前年を上回って推移している。(R6：5,200万円 → R7：5,400万円) (課題) ・直販生産者の高齢化による出荷量減少 ・道の駅(布施ケ坂)の施設の老朽化 (今後の方向性) ・月1回最適化委員会を開催し、直販会員や関係機関からヒアリングし、ふるさとセンターが生産者の要望や意見を基に、直販所制度の検討 ・高齢者への対応策として、コミュニティバスによる集荷の検討 ・道の駅リニューアルの検討
			茶製品 販売額	3,936万円 (R4)	3,207万円	4,220万円	4,400万円	3 「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大 ・JAを中心としたかぶせ茶の生産体制の調整【通年】 ・つの茶を気軽に味わう場所、商品の拡大【通年】 ・つの茶のブランディングに向けた協議検討【通年】 ・ティーツーリズム可能性調査の実施【通年】 ・地域おこし協力隊の募集及びSNS等を活用した情報発信【通年】	3 「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大 ・かぶせ茶の生産維持・増産に向けて、生産者への声かけによる調整 ・つの茶を気軽に味わえるイベント件数：5件 ・関西万博で道の駅茶飲料の販売(8/22～23) ・「四万十こちャソーダ」の開発、販売開始 ・新商品開発や体験イベントの造成、販売促進に向けて茶業振興アドバイザーを随時導入 ・あぐりナビや町HP、県移住ポータルサイトにて地域おこし協力隊の募集	1,333万円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：75.8% ・対前年同期比：103.2%			C

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
								R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
商 工 業	13	道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化 (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十町 ・(株)あぐり窪川 道の駅兼地場産業振興センターであるあぐり窪川を拠点とし、地域の特産品の直販やレストランでの提供、観光情報の発信、地域資源を活用した加工品の開発と販売により、地場産業の振興と地域活性化を目指す。	売上高 3.15億円 (R4)	3.15億円	3.96億円	4.41億円	1 物販・レストランの強化 ・物販・直販所の魅力向上に向けた商品や売り場の見直し、出品者の新規獲得等【通年】 ・レストランの受入態勢の強化とサービスの向上【通年】 2 商品開発・販路拡大 ・新商品の開発、新たな地域資源の掘り起こし【通年】 ・営業活動の強化【通年】 3 情報発信機能の強化 ・SNSを活用した情報発信【通年】 ・情報発信のための社内体制構築【4月】	1 物販・レストランの強化 ・道の駅のレイアウト変更に伴う協議(5月、9月) ・出品者の新規獲得：5名 ・地元客呼び込みに向けたワンコインモーニング及び平日限定の安価なハンバーガーランチの開始(4月～) ・季節限定のメニューの提供(5月～) 2 商品開発・販路拡大 ・町内産の豚肉を使った餃子のOEM受注(1月～) ・月30件を目標にパイヤー等へのコンタクトを実施中 ・フェア、スポット採用件数：19件(4月～9月) ・商談会への参加：5件(4月～9月) 3 情報発信機能の強化 ・新たに担当者1名を配置し、Instagramで定期的に情報を発信(4月～) ・高知新聞折り込みチラシ(あぐり広報室)の範囲を須崎市～四万十町へ拡大し、情報発信を強化(3月～7月)	0.95億円 (R7.4月～7月) ・R7到達目標達成率：72.0% ・対前年同期比：107.9%	C	(成果) ・レストランにおいて、昨年度からの新メニュー(ハンバーガー)やワンコインモーニングなどの新たな取り組みにより売上高が増加している。 売上高(レストラン)： →約2千万円(4月～8月)(対前年同期比：約113%) ・フェア、スポットの採用件数が昨年より増加している。 →前年12件 → 本年19件(4月～9月) ・県内小売店 2 件で丸餃子が定番化している。 (課題) ・レストラン部門の固定費の削減 ・集客力の大きい県外での豚まんのPR不足 ・情報発信の強化が必要 (今後の方向性) ・レストランのシフト見直しやメニューの削減などによる固定費の抑制 ・東京及び大阪の百貨店等のフェアにて豚まんの蒸し売りのPRを実施 ・ECサイトの委託先を変更し、リアルタイムでの情報発信を実施
商 工 業	14	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大 (四万十町) 【実施主体】 ・◎RELA GREEN VILLAGE(株) 生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を生かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により、四万十町産をはじめとした近隣地域の生姜の知名度向上を狙う。また、町内の生姜農家や企業等と連携し、減農薬栽培に向けた取り組みを進めることで、地域の生姜農家の所得安定・向上や雇用の創出を目指す。	売上高 会計年度 9月～8月 962万円 (R4)	456万円 (9月～7月) ※8月までの最終実績は9月中旬以降確定	1,050万円	1,480万円	1 施設整備 ・加工施設整備の計画策定【通年】 2 商品開発、販売促進 ・加工品の製造体制の検討【通年】 ・環境負荷低減が可能な栽培方法の実証実験【通年】	1 施設整備 ・加工施設を整備する予定であったが、まずは現在の作業場を改装し、簡易な加工施設を整備する方向性で検討中 →簡易加工施設運用の後、圃場内に加工場を建設予定 2 商品開発、販売促進 ・新商品(ガリ5種類程度)を開発予定(産振アドバイザー制度の活用を検討中) ・研究機関とともに、圃場から川へ流れる水の水質検査を実施中	- (会計年度に合わせて10月以降報告)	-	(成果) ・加工施設の整備に向けた検討が進んでいる。 (課題) ・生姜プロテインに代わる加工品の製造(ふるさと納税の規定変更により生姜プロテインは出荷できなくなる)が必要 (今後の方向性) ・生姜プロテインに代わる新商品開発を検討(産振アドバイザー制度の活用を検討)

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	15	高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域) 【実施主体】 ・◎(一社)奥四万十高知 ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 ・四万十町 (一社)奥四万十高知を中心に高幡地域内の観光、自然、食、人等の観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力を情報発信し、セールス活動を行うことでエリアの知名度向上や誘客を促進し、地域経済の波及効果につなげていく。	主要観光施設入込数	2,081,383人 (R4)	2,087,909人	2,261,720人	2,646,000人	1 観光情報の発信 ・高知県や四国ツーリズム創造機構が推進する誘客活動への積極的な参加と、独自セールス活動の強化【年6回】 ・ツーリズムEXPOを主体とした県外イベントへ出展(とさとさなど関西を中心としたPR)【年3回】 ・奥四万十エリアの認知度向上に向けた、旅行雑誌の特別編集号制作による情報発信【12月】 2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売 ・「どっぷり高知旅キャンペーン」と連動した周遊促進・滞在期間延長への取り組み【通年】 ・旅行商品造成拡充【通年】 ・台湾等、海外商談会への出展【2月】 ・ファミツアー事業展開強化【2回】	1 観光情報の発信 ・商談会およびセールス参加(4/22:東京会場、5/7~5/9:関西地区教育旅行セールス) ・各種イベントへの出展(大阪長居植物園高知県マルシェ)(5月) ・HP、SNSによる域内イベント情報の発信 2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売 ・どっぷり高知旅キャンペーンと連動したコンテンツの磨き上げのための造成会議開催(須崎市:4月・津野町:4月・四万十町:7月(3回)) ・奥四万十高知主催の募集型企画旅行(募集ツアー)の造成および募集開始 →7月:1本、8月:1本、9月:1本、10月:2本 ・台湾旅行エージェント招へい事業(ファミツアー)準備 →7月:2社、11月:2社のアポイント開始	992,398人 (R7.4月~8月) ・R7到達目標達成率:105.3% ・対前年同期比:102.6%	A (成果) ・主要観光施設の入込数は、目標を上回り、好調に推移している。 ・奥四万十高知主催の募集型商品の造成及び募集を開始した。 ・県外からの参加もあり、誘客につながっている。 (課題) ・目標達成に向け、道の駅を中心に集客対策が必要 ・どっぷり旅キャンペーンと連動した募集型商品を多数造成していく予定ではあるが、ツアー内容の磨き上げやツアー催行のためのPRが課題 (今後の方向性) ・奥四万十温泉郷スタンプラリー等の企画を通じ、誘客促進やPR強化を実施 ・旅行会社向けファミツアーや県外へのセールスキャラバンの企画等、セールス活動を強化 ・募集型商品の造成及びツアー内容の磨き上げ及びツアー催行のためのPRを強化
			主要宿泊施設宿泊者数	59,120人 (R4)	51,242人	62,660人	64,000人				

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	16	<p>須崎市海のまちプロジェクト (須崎市)</p> <p>【事業実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・須崎市海のまちプロジェクト推進協議会 ・(一社)須崎海のまち公社 <p>須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。</p>	<p>主要施設等の 入込数</p> <p>28,089人 (R4)</p>	73,248人	42,000人	53,000人	<p>1 海のまち創り・リノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設及び入浴施設の整備【8月～3月】 ・大型バス用駐車場や新たな宿泊施設等への利活用を目的とした候補物件の選定、設計【通年】 <p>2 海のまちの魅力の向上・再発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釣りバカ市民大会の開催：3回【5月、10月、1月】 ・市民向け釣り教室の検討・開催【月1回(通年)】 ・釣りバカシティブロジェクト協力店情報等を含んだ、リーフレットの製作【4月～3月】 ・エリアの施設、商店街を活用したイベント等の継続開催による賑わいを創出【通年】 ・釣りバカシティブロジェクト情報局の開設【6月】 <p>3 エリア外との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行企画の造成(初心者向け釣りコンテンツの造成等)【4月～3月】 	<p>1 海のまち創り・リノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設及び入浴施設の整備 →宿泊施設：旧岩井レコード(10月～) 旧吉村旅館 (調整中：他施設と同時期にオープン予定) →入浴施設：旧錦湯(10月～) ・大型バス駐車場について、候補地の抵当権の関係で調整中 ・すさきでロイロイゴールデンウィーク開催(5/3～5/5) ・すさきでロイロイ夏休み開催(8/23～8/24) <p>2 海のまちの魅力の向上・再発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GWイベントに連携した「手ぶらで3時間フィッシング」の開催(5/3～5/5) ・第3回すさき釣りバカ大会タイラバ開催(5/18) ・RKC放送局にて「釣りバカ ザ・ムービー」の放送開始(6/8～：毎週日曜) ・釣りバカシティすさき公式HPの開設(7月～) ・公式YouTubeチャンネル「釣りバカ・ザ・ムービー」の開設(7月～) ・静岡県下田市JIBT国際カジキ大会でのPR活動(7/24～7/27) <p>3 エリア外との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JT&高知信用金庫が連携し観光ツアーの造成中 →JT&社員向け須崎視察ツアーの実施(4/9～4/10) 	<p>16,479人 (R7.4月～8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：94.2% ・対前年同期比：89.2% 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すさきでロイロイゴールデンウィーク来場者数：1,500人 ・釣りバカのテレビ放送、公式HP、YouTubeチャンネルが開始されたこと、情報発信力が強化された。 公式HP：総閲覧者数4,016人(R7.8月時点) YouTube：投稿数6、総視聴数約17,300回(R7.8月時点) インスタ：フォロワー1,029人(R7.8月時点) <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設及び入浴施設の整備において、同時オープンのスケジュールに遅れが発生 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設及び入浴施設の整備についてスケジュール調整を検討 ・浦ノ内地区での釣りイベントの検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
				R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	17	<p>浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化 (須崎市)</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎須崎市 ・(一社)須崎市観光協会 ・NPO法人すさきスポーツクラブ ・(株)ロゴスコアポレーション ・その他関係事業者等 <p>須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設ロゴスパークとの連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。</p>	<p>主要施設等の 入込数</p> <p>46,958人 (R5)</p>	40,042人	53,000人	63,000人	<p>1 海洋スポーツの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業、大学等への合宿誘致活動【通年】 ・競技連盟等へのアプローチ(水泳、カヌー)【6月、10月】 ・オープンウォータースイミング参加者増に向けたPR活動等【6月】 <p>2 体験型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー層やこどもへの効果的なアプローチの検討【通年】 ・情報発信の充実、マスコミ等を通じたPR【通年】 ・イベントの開催【通年】 ・ロゴスパーク宿泊エリアにおけるイベント等への活用を検討【通年】 <p>3 地域活性化に向けた連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣事業者との連携による滞在時間延長に向けた取り組みの検討【通年】 ・市内事業者との周遊に向けた取り組みの検討【通年】 ・海のまちプロジェクトとの情報共有、連携【通年】 ・「どっぷり高知旅キャンペーン」と連携した観光ツアーの造成【～3月】 	<p>1 海洋スポーツの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌージュニアナショナルチーム合宿(4/17～4/20) ・カヌーU23・ジュニア日本代表合宿(6/16～6/19) ・OWSオーシャンズカップ2025視察及び大会誘致活動(6/14、6/15) ・ドラゴンカヌー大会の開催(8/3) →参加：29チーム <p>2 体験型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COMODO URANOUCIオープニングイベント(7/20) 海上アスレチック、バナナボート体験、お餅投げ等 <p>3 地域活性化に向けた連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やなせたかし氏制作キャラクターの「なべらまん」を活用した須崎のPR事業、観光パンフレット作成及び配布(周遊促進・滞在延長事業費補助金(周遊促進・滞在延長支援事業))(6月～) ・須崎市観光協会を通じた地域事業者との連携促進 →釣った魚を捌くお店の紹介(提携店舗数：10店舗) →観光ツアー業者と地元の飲食店のマッチング ・釣りコンテンツ強化 →浦ノ内の釣り筏を活用したツアーの造成 →アカメ釣りのツアー造成 →ツアー造成数：11件(4月～8月) 	<p>19,417人 (R7.4月～8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：87.9% ・対前年同期比：88.7% 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー場がIOC認定競技別強化センターに認定(R7.4/1～R12.3/31)されたことに伴い、ナショナルチームの合宿が実施され、入込数増加に寄与している。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマチュア等合宿誘致に向けたPR不足 ・ロゴスパーク来場者の減少 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県スポーツツーリズム課及びKVCAとを連携した合宿誘致計画の検討 ・ロゴスパークに隣接する公園利用者の誘客、ファミリー層へのアプローチ、イベント等開催の検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】		
				R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	18	スケートパークを核とした地域の活性化 (須崎市) 【事業主体】 ・◎須崎市 魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることのなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。	主要施設等の 入込数 -	-	-	27,000人	1 魅力ある施設の整備に向けた協議等 ・工事請負業者の公募【R7.4月～】 ・須崎市6月議会で承認後工事開始【6月～】 ・競技力向上及び競技人口増加に向けた事業計画の策定【6月～12月】 2 ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討 ・具体的なイベント、大会の検討【6月～12月】 ・FLAKE CUPの誘致活動【12月～3月】 3 効果的なプロモーションの検討 ・情報発信方法の検討【6月～12月】 ・オープニングイベントの検討【6月～12月】 ・FLAKE CUPの誘致活動(再掲)【12月～R3月】	1 魅力ある施設の整備に向けた協議等 ・スケートパーク条件付一般競争入札落札業者の確定(6月) ・スケートパークの整備工事(6月～3月) ・日本スケートパーク協会との協議及び八王子市スケートパーク施設視察(6/16) 2 ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討 ・日本スケートパーク協会との協議及び八王子市スケートパーク施設視察(6/16)(再掲) ・県スポーツツーリズム課と大会誘致及びオープニングイベントについて協議(8/26) 3 効果的なプロモーションの検討 ・日本スケートパーク協会との協議及び八王子市スケートパーク施設視察(6/16)(再掲) ・県スポーツツーリズム課と大会誘致及びオープニングイベントについて協議を(8/26)(再掲)	-	-	(成果) ・令和8年度オープンに向け施設整備が順調に進んでいる。 (課題) ・指定管理や令和8年度のオープニングイベント等のソフト事業の検討に遅れが発生 (今後の方向性) ・指定管理者の選定(12月予定) ・県のスポーツ課、スポーツツーリズム課及び関係各者と連携したオープニングイベントの検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標		R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	20	梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町) 【実施主体】 ・◎(一社)ゆすはら雲の上観光協会 ・梶原町 ・梶原町商工会 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会 梶原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピーロードなどの滞在型観光や新たな体験型観光等により、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。	主要宿泊施設宿泊者数	12,257人	12,500人	14,000人	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実 ・(一社)ゆすはら雲の上観光協会と連携した体験プログラムの造成【通年】 ・運営主体、運営方法の検討【通年】 ・専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発【通年】 2 誘客活動 ・定期的な観光情報の発信【通年】 ・「茅葺き屋根体験プラン」の造成【4月～10月】 ・太郎川公園内の雲の上ギャラリースイートルームを活用した誘客の検討【12月～3月】 3 受入基盤の整備 ・太郎川公園再整備(道の駅ゆすはら・ホテル・レストラン)	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実 ・体験プログラム・ツアー商品の造成 林業体験(4月、7月) 絵付け体験(5月、7月) ヨガ体験(7月、8月) みどりの学習旅行(9月) ・雲の上市場食堂で梶原町産食材を使用した新メニュー7品の提供を開始(7月～) 2 誘客活動 ・太郎川公園「森林フェスタ」開催(5/25) ・太郎川公園内へのアクティビティ施設(ファンモック)整備(8月) →8/13～15無料開放を実施 ・大阪万博ポータルサイトに「ゆすはら町茅葺き屋根プロジェクト」を掲載(4月～10月) 3 受入基盤の整備 ・令和7年度梶原町開発振興計画審議会 →太郎川公園再整備について協議：2回(6/4、7/3)	6,485人 (R7.4月～8月)	S	(成果) ・主要観光施設の入込客数は目標を上回るペースで推移している。 (課題) ・太郎川公園再整備計画のスケジュールに遅れが発生 (今後の方向性) ・太郎川公園再整備について、年度内に方向性を決定できるよう調整
			主要観光施設入込数 113,131人 (R4)	137,204人	125,000人	120,000人			66,245人 (R7.4月～8月)		

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】			
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
												現時点の進捗状況
観光	21	津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト (津野町) 【実施主体】 ・◎津野町 四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラム等津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図り、地域経済の波及効果につなげていく。	主要観光施設入込数	387,239人	435,000人	456,000人	1 観光資源を生かした魅力づくりの推進 ・津野町の魅力(星など)をVR技術で鑑賞・体験できるコンテンツの開発【通年】 ・四国カルストエリアの観光客に町内各地の魅力を伝えるための取り組みの継続【通年】 2 観光基盤の整備 ・人材確保に向けた県内外での人材募集及び外国人労働者の受入協議を継続【通年】 ・労働条件や福利厚生の見直し ・簡易宿泊所等の開発検討【通年】 3 戦略的な情報発信 ・ターゲットや目的に合わせた情報発信【通年】 ・HPの多言語化 ・デジタルスタンプラリーや体験キャンペーン等による周遊促進【通年】 4 魅力を伝える人材の育成と観光推進体制の構築 ・観光ガイドの育成、スキルアップ講習会の実施【通年】 ・観光に係る地域おこし協力隊の募集【通年】 ・町内の観光関連事業者間の連携【通年】 ・(一社)奥四万十高知や四国カルストエリア広域連携推進協議会との連携した取り組みの継続【通年】	1 観光資源を生かした魅力づくりの推進 ・株式会社五藤光学研究所との連絡運営会議の開催：2回(4/14、6/9) ・四国カルストエリアのイベント件数：4件(4～7月) ・「つづねつね # 6」の開催に当たり、体験造成における課題の解決に向けアドバイザーを依頼(県体験アドバイザー派遣事業の活用)	198,195人 (R7.4月～8月)	A	(成果) ・高知龍馬空港や帯屋町アーケードなど、旅前の人の目に多く触れる場所で四国カルストや津野町のPRが図られ、町内周遊の効果につながっている。 【雇用創出数】 2人 (R7.8月末時点) (課題) ・星ふるグレイτζTENUGUの人材不足 ・宿泊施設の整備の検討が遅れが発生 (今後の方向性) ・星ふるグレイτζTENUGUで外国人材の雇用(11月予定) ・星ふるグレイτζTENUGUの人材確保に向け、企業委託型の地域おこし協力隊を導入予定 ・「農村体験実習館 葉山の郷」を活用した宿泊施設の検討 ・観光振興事業費補助金を活用し、5市町によるスタンプラリーイベントを開催予定	
			主要宿泊施設宿泊者数	11,829人	14,900人	15,800人			6,126人 (R7.4月～8月)			B
			観光消費額	351,522千円	366,200千円	385,000千円			182,046千円 (R7.4月～8月)			S

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	22	<p>わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</p> <p>【実施主体】 ・◎四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外</p> <p>四万十町の観光拠点として「海洋堂ホビー館四万十」のブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町の魅力ある資源を組み合わせ、周遊促進やインバウンドの誘致など、地域と連携を強化して交流人口の拡大を図る。</p>	ホビー館年間 入場客数 2.7万人 (R4)	17,250人	3.5万人	5万人	<p>1 ミュージアム機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展やイベント等の開催【2回(4月～6月、7月～11月)】 予土線を活用した集客とPR【通年】 オリジナルキャラクター(うまのすけっぴ等)を活用した広報【通年】 SNS等を通じた情報発信の強化【通年】 地域と連携した食事提供システムの検討【通年】 <p>2 関係機関と連携した集客力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> リピーターの獲得を促す仕組みづくり【通年】 地域等との連携(観光協会、(一社)奥四万十高知、大正地域観光推進協議会等)【通年】 	<p>1 ミュージアム機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展の実施：ジオラマ展(4/26～6/29) →期間中人数：5,608人 エヴァンゲリオン展(7/19～11/24) ホビー館ラッピング列車(予土線)によるPRを実施中 土佐弁キャラのケーブルテレビによる県内PRを実施中 さんしんGOによるPR(4/20) 軽食(豚まん及びアイス)の提供開始 <p>2 関係機関と連携した集客力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示内容の一部リニューアル(4月～) 広報に関して各関係機関と連携(8月～) →観光協会やエヴァンゲリオン公式インフォメーションによるPR 	<p>14,215人 (R7.4月～9月)</p> <p>・R7到達目標達成率：81.2% ・対前年同期比：123.9%</p>	C	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ファンの多い企画展の実施により、前年同期と比較して来館者数が増えている(対前年同期比：123.9%)。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> SNS等による広報不足 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の県外事務所のSNS等との連携や、チラシの新たな配布先の検討 	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
								R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
観光	23	<p>～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業 (四万十町)</p> <p>【実施主体】 ・◎四万十町 ・(一社)四万十町観光協会 等</p> <p>四万十町の山・川・海の豊かな地域資源が作りあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。</p>	施設等 利用者数 78.3万人 (R4)	72.3万人	80.1万人	82万人	<p>1 受入態勢の充実・整備 ・草花ガイドの育成、植物観察ツアーの企画【通年】 ・民泊の受入検討、インバウンド環境の整備【通年】 ・四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成【通年】</p> <p>2 観光資源の造成・磨き上げ ・町有観光関連施設の整備・磨き上げ、自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ【通年】</p> <p>3 情報発信力の強化 ・道の駅等拠点との連携やSNSを活用した効果的な情報発信【通年】 ・「花とみどりのまちづくり」によるPR【通年】</p>	<p>1 受入態勢の充実・整備 ・あちこちたんね隊(町歩きガイド)育成事業 総会の開催：1回(8月)、ガイド勉強会の開催：1回(7月) ・町歩き・山歩きツアー等の実施 (あちこちたんね隊、遠山を守る会との連携) 植物観察ツアーの開催：3回(5/10、6/14、9/7) ・観光協会によるInstagramでのイベントやツアー等の情報発信 日英両言語での投稿によるインバウンド対応 ・大正地域での滞在型観光推進事業(分散型ホテル事業)の実施 今年度事業に向けて関係者で打合せを実施(8/12) ・町内を周遊する移住体験ツアーの実施：参加者18人 (8/28～8/30) ・町内を巡るフォトツアーの開催：3回予定(9月～10月)</p> <p>2 観光資源の造成・磨き上げ ・ふるさと交流センター(キャンプ・アクティビティ施設)の基本計画策定中(4月～) (高知県観光振興推進総合支援事業費補助金) ・着地型商品の販売 JTB高知支店によりR3～R5に造成された4商品 ・町内イベントの実施：4回(4月～8月) ・自然と食を生かした「BBQと川遊び」体験プログラムの実施： 参加者9人(8/8) ・地域の資源を生かした「あゆの火振り漁鑑賞ツアー」の実施： 参加者6名(9/23)</p> <p>3 情報発信力の強化 ・町公式note、Instagramでの情報発信 町の魅力を伝えるようなSNS運用を実施 ・観光協会によるInstagramでのイベントやツアー等の情報発信 日英両言語での投稿によるインバウンド対応【再掲】</p>	33.2万人 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：99.5% ・対前年同期比：101.7%	B	<p>(成果) ・着地型商品の利用者の増加や地域資源を生かした体験プログラムの実施等により、施設等利用者数の増加に寄与している。</p> <p>(課題) ・インバウンド受入環境の不足 ・分散型ホテル事業の実施にあたり事業計画策定が必要 ・SNSでの情報の拡散力が課題</p> <p>(今後の方向性) ・キャッシュレス決済導入のためのセミナーや外貨両替の仕組みづくりを検討 ・分散型ホテルの事業計画を策定 ・拡散力の高いInstagramでの広告展開を強化</p>
観光	24	<p>四万十町観光交流拠点施設の整備 (四万十町)</p> <p>【実施主体】 ・◎四万十町</p> <p>高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化につなげる。</p>	道の駅集客数 40.5万人 (R4)	38.5万人	45.1万人	49.7万人	<p>1 受入体制の充実・整備 ・観光交流拠点の活用・運営等に関する関係団体等との協議・連携【通年】 ・町内各地の花をテーマとした施設の整備や既存の取り組みの磨き上げ【通年】</p> <p>2 観光交流拠点施設の整備 ・実施設計の策定【9月～3月】</p> <p>3 周遊、滞留・滞在型観光の推進 ・道の駅等拠点との連携による情報発信【通年】 ・町内周遊観光促進事業の実施【通年】</p>	<p>1 受入体制の充実・整備 ・観光交流拠点の関係者間での定例会を毎月実施</p> <p>2 観光交流拠点施設の整備 ・定例会の意見を踏まえた実施設計の策定中(6月～)</p> <p>3 周遊、滞留・滞在型観光の推進 ・町内への周遊を促す看板等の設置を検討中 ・町内を巡るフォトツアーを開催予定：3回(9月～10月) ・町内を周遊する移住体験ツアーの実施：参加者18人(8/28～8/30)</p>	18万人 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：95.8% ・対前年同期比：102.2%	B	<p>(成果) ・定例会を通して、関係団体と連携し、観光交流拠点整備が順調に進んでいる。</p> <p>(課題) ・具体的な観光客誘致策の検討が必要 ・観光交流拠点施設から町内周遊を促進するための更なる仕組みづくりが必要</p> <p>(今後の方向性) ・観光客誘致に向けて、定例会を通じて観光交流拠点施設の運用方法を検討 ・観光交流拠点施設を始発とする町内サイクリングコースを検討</p>